

第2部 活動発表

「地域の課題解決策」

新潟県立栃尾高等学校 3年生

丸田 それでは続きまして、「高校生」の発表に移ります。発表者の皆さんよろしくお願いたします。

高校生 礼。これから、新潟県立栃尾高校の発表を始めます。昨年取り組んだ栃尾高校の地域創生、チーム女子高による地域の課題解決策について発表します。こちらのイラストは昨年度の3年生が書いたものです。新潟日報の「ふむふむ」にも掲載されました。

ここで、発表の前に少し地域の名産品について紹介させてください。栃尾高校のある栃尾地域では、たくさん名産品がありますが、今回紹介するのはイラストにもある「油揚げ」と「てまり」です。油揚げは全国的には「栃尾の油揚げ」として知られています。大きさは通常の油揚げの3倍もあり、食べ応えは十分です。栃尾地域には16もの油揚げのお店があるので、自分の好きな店を探すのも良いのではないのでしょうか。次にてまりです。油揚げより有名ではないかもしれませんが、今なお伝統と技・心が受け継がれています。栃尾地域では一年に一度、てまりまつりが開催されています。ぜひ足を運び、てまりの素晴らしさを体感していただけたらと思います。

では、学校の活動発表に移ります。まず、学校の概況です。栃尾高校は、栃尾地域唯一の県立高校であり、長岡市内随一の総合高校です。112年の歴史ある伝統校で、栃尾地域は周囲が山ということもあり、空気が澄んでいて自然をととても身近に感じられます。そのため、生物の授業では学校の敷地内でじかに植物の観察や生態系の調査ができます。他にも、科学部は近くにある刈谷田川の水質調査なども行っています。そして、2年次から4つの系列に分かれ、それぞれ違った学習をします。基礎学力の向上を目指し、上級学校進学に対応する学力を身に付けることができる人文・自然科学系列。経済社会に対応し、商業科目を基礎から学べるビジネス・情報系列。生活力を身に付けるための実

践的な授業が受けられる福祉・家庭系列。工業に関する進学や就職を目標に学習できる工業技術系列です。各学科で様々な資格も取得できます。制服も人気があります。

これは栃の大樹をイメージした栃高グランドデザインです。3年間を通して総合的な勉強、ロングホームルーム、栃高★未来プロジェクトという地域貢献活動の学習をします。それにより地域を担う人材の育成を、さらに地域社会の一員として自己の実現の2つを目指すことができます。

次に、栃尾高校の地域学習についてお話します。地域学習は「イベントプロデュース」「地域探訪」「栃尾高校展」という3つの柱によって成り立っています。さらに、この3つの柱を支える方法として産業社会と人間、各教科での取り組み、椽峰ライフ、部活動などがあります。では、それぞれの地域学習の特徴を紹介します。

1つ目は「イベントプロデュース」の『来て！見て！作って！体験フェスティバル』です。こちらは毎年8月に栃尾文化センター様で開催される、ものづくりなどが楽しめるイベントで、参加費用は無料です。昨年度は来場者の安全を第一に中止とし、当日製作予定だったものの材料をキットにして配布しました。当日は約100名の子供たちが来てくれました。私も小学校、中学校と続けて参加したことがあります。丁寧にやさしく教えていただき、とても楽しく工作できました。そして私は今、それをプロデュースする立場になり、イベントを企画しています。

2つ目は「地域探訪」です。昨年度は栃尾地域を題材にした『とちお百人一首』を作成しました。国語表現選択の生徒が、それぞれの場所についての文言を五七五七七で作成しました。絵札は学年ごとに担当がその地域へ足を運び、風景のイラストを描きました。字札は各クラスで力を合わせてそれぞれ完成させました。完成したものは栃尾高校の玄関に展示しました。今年は作成した百人一首を活用し、全校でのかるた大会を企画しています。さらに、A4サイズで作成したものを一般のかるたの大きさに縮小し、近くの小学校に寄贈することを考えています。

3つ目は「栃尾高校展」です。こちらも栃尾

文化センター様で開催されるイベントです。私たちには一年間続けてきた普段の学習や地域貢献活動などの取り組みがたくさんあります。それを知ってもらうために、学校の取り組みを長期間展示しました。地域の方をはじめ、多くの人に私たちの活動および栃尾高校の魅力を発信しました。毎年少しずつ内容が違うので、栃尾高校の「今」を知ってもらうことができます。去年は、おおよそ3,000人の方に来場していただきました。

先ほど紹介したのは毎年行っている活動です。ここからは、昨年度特に力を入れて取り組んだ活動の内容となります。私たちの中で地域の課題として、新型コロナウイルス対策、若者向けのお土産商品開発、地域資源活用商品開発、栃尾地域の交流人口増加の4つが挙げられました。そこで、4つの系列がチーム栃高として各系列の得意分野を活かし、挙げられた4つの課題を解決するにあたって右側に挙げたものに取り組みました。1つずつ紹介していきます。

まず、新型コロナウイルス対策としてフェイスシールドの製作をしました。骨組み部分は工業技術系列が、シールド部分は福祉・家庭系列が、ロゴマークはビジネス・情報系列が担当しました。栃尾青年会議所様との協働開発で、作成したものは栃尾地域の高齢者施設に100個、長岡中央病院様に200個寄贈いたしました。これは製作風景で、TeNY テレビ新潟と新潟日報の取材を受けている様子です。休校明けの10日後、有志の生徒たちで作りました。これはCADを利用したフェイスシールドの3Dモデルです。これは工業技術系列の生徒が設計および製作しました。注目点は2つあります。

1つ目は栃高が独自開発した突起です。これはシールド部分を取り付けるための突起物で、この形状は他のフェイスシールドには見られません。この突起によりシールド部分の脱着が楽になります。

2つ目はフェイスシールドを製作する時の図面の配置です。まず、フェイスシールドを1個作成するにあたり、かかる時間はおよそ3時間となっています。効率よく生産するために1回で2個製作できるように、このような配置を考えました。これで製作時間は4時間となり、2時

間分短縮することができました。

次に、若者向けのお土産商品開発としてTOCHIOエコバッグの製作をしました。昨年度からレジ袋が有料になったこともあり、エコバッグ製作に拍車がかかりました。福祉・家庭系列の生徒が栃尾織物で作ったくみボタンが付いているため、持ち運びが便利になっています。デザインは美術部の生徒が考え、同じデザインのTシャツもあります。地元商店街「とちパル」様で常時販売しているので、是非お手にとってもらえると嬉しいです。販売した当初は2つとも即、完売しました。

次に、地域資源活用商品の開発を目的に、ながおか花火館のオープン限定商品の開発を行いました。こちらは地元企業、おさべ菓子店様との共同開発です。風呂敷は山信織物株式会社様にもご協力をいただきました。こちらの大きく映っている写真は花火館オープン当日、商品を陳列した様子です。商品のPOPや花火玉など、すべて栃尾高校が自作しました。

さらに、当初用意していただいた施設は小さいところでしたが、花火館に対する栃高生の思いを伝えたとこ、メインの販売スペースをいただきました。当日、100セット用意しましたが、すべてオープン当日の午前中で完売しました。

なぜ、このような活動をしたのか。取り組みに至ったきっかけをスライドに記載した3つの観点からお話します。1つ目、近年流行している新型コロナウイルスによるイベントの自粛が相次ぎ、長岡花火も同じように中止になったことです。本来であれば、全国各地から様々な方が見に来る長岡花火。それは人が人を呼び、年々人気が高まっていました。ですが中止になったことによって、良さ、素晴らしさの拡散力が弱まりました。少しでも力になればと、全国の方々に知ってもらうために限定商品を開発しました。

2つ目、コロナ禍により経済活動が疲弊していることです。どこの地域でも観光客の減少が見られ、自粛生活により人々の心情は暗いものとなっています。しかし、このピンチをチャンスに変え、地域の活性化を目指したいと思いました。栃尾地域には全国的に知られている「良

さ」以外にも、あまり知られていない「良さ」、「良さ」と「良さ」が組み合わせあった「良さ」などがあります。それらをまとめて発信できたらいいなと思い、地域の「良さ」をすべて盛り込んだ商品の開発を行いました。これから紹介する商品は、先ほど紹介した花火館限定商品にすべて含まれているものです。

まずは『まどれーぬ』です。左側は栃尾産大豆のおからから、右側は長岡野菜を使用したマドレーヌです。おからは豆腐を作る際に出たもの、長岡野菜はもともと廃棄予定のものをそれぞれ有効活用するためにマドレーヌに使用しました。次は、長岡産もち米を使った丸鯛というお菓子です。一見、砂糖菓子に見えますが、実はこのお菓子は中にあんこが入っています。栃尾地域では何かお祝いごとがあるとこれを食べます。お茶菓子としても人気があるので良かったら食べてみてください。次は、長岡花火・丸鯛限定ストラップです。こちらは美術部生徒によるデザイン、工業技術系列生徒による製作です。デザインは、8パターンの案の中から2パターン採用されました。このデザインは花火館限定のデザインです。花火と丸鯛がコラボしています。

次は栃尾織物を使用した特製の風呂敷です。こちらは山信織物株式会社様の全面協力となっており、特製タグが付いています。福祉・家庭系列の生徒が糸を染めるところから製作しました。最後にメッセージカードと栞です。栞にはビジネス・情報系列生徒の思いが詰まっています。栞には風呂敷の活用法が書いてあり、先ほど紹介した商品はすべて風呂敷に包まれ、セットされています。

3つ目、産学官連携の取り組みをすることにより、名産品の活用や総合方向の学びを取り入れた商品開発を行い、地域の活性化に貢献できるからです。授業での学びを活かし製作に取り組みました。こちらは福祉・家庭系列での授業の様子です。布のデザインからデザイン画作成まで山信織物株式会社様にご協力をいただきました。

最後に、栃尾地域の交流人口増加を目的に栃尾縛りというフォトコンテストを開催いたしました。長岡大学様との共同の取り組みです。一

般部門と高校生以下部門を設け、それぞれのグランプリに賞金を出しました。このポスターは地域おこし協力隊の加治 聖哉さんに製作していただいたものです。多くの方から訪れてもらうために4つの系列が共同でオリジナルグッズを製作し、参加者に配布しました。栃尾文化センター様からの支援も受けています。日頃より栃尾高校と連携し、様々な取り組みを行っています。こちらは令和元年度の『来て！見て！作って！体験フェスティバル』の様子です。

まとめです。栃尾高校はこのような地域学習を通して様々な世代の方と協力し、課題に取り組んできました。私たちの力の育成が地域交流につながっていけばいいなと思います。これからも地域活性化に力を入れ、次世代にバトンをつなげられるよう頑張っていきます。以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。礼。

丸田 発表者の皆さま、ありがとうございました。

波多野教頭 次の講演に入る前ですけど、説明が逆になってしまいますが紹介します。先ほど本校の生徒から栃尾高校の活動という形で報告がありました。皆さん、聞いて戸惑ってしまった人もいるかもしれませんが、実はこの発表は、県内の総合学科を持つ高校がそれぞれの学校でどういう活動をしているかを発表する大会が計画されていました。『総合学科プレゼンテーション大会』というものです。そちらの発表用の内容を今回皆さんに聞いてもらったところですので、基本、外部の方に向けた内容であったので聞いて「あれ？」と思った人もいるかもしれません。栃尾高校ではいろんな活動があるんだなと知ってもらえればと思って発表してもらいました。前後しましたが以上です。